

財 - 5 9 2  
総政 - 4 0 0  
平成18年10月16日

各 部 局 長  
各 委 員 会 事 務 局 長  
議 会 事 務 局 長  
教 育 長 様  
警 察 本 部 長  
脳 血 管 研 究 セ ン タ ー 所 長  
リ ハ ビ リ セ ン タ ー ・ 精 神 医 療 セ ン タ ー 所 長

総務企画部長

### 平成19年度当初予算の編成について（通知）

平成19年度当初予算は、「あきた21総合計画・第3期実施計画」の2年目として、「元気なふるさと秋田づくり」に向けて県民福祉の向上と県勢の発展につながる予算を編成することとし、先の予算編成会議において、予算編成の基本方針（別紙「平成19年度当初予算編成方針」、「重点施策推進方針」）及び各部局への配分額が決定されました。

平成19年度は、秋田わか杉国体・秋田わか杉大会が開催されることから、これを機に全庁が一体となった各種の取り組みを強力に推進するとともに、「産業の振興と働く場の創出」、「教育・人づくりと子育て支援の充実」等を始めとする重点施策及び各部局が主体的に実施する新規事業に対して重点的に予算配分し、県民ニーズや県政の諸課題に積極的に対応することとしています。

一方、現在の地方財政は依然として厳しい状況にあります。国の平成19年度地方財政収支の見通しでは、三位一体改革により地方税の増収が図られるものの、地方譲与税が大幅に減少するほか、地方交付税についても2.5%の減少となっています。

本県財政についてみると、県税収入の増加が見込まれるものの、地方交付税等が引き続き減少することから、歳入全体での伸びは期待できない厳しい状況にあります。

各部局においては、「新行財政改革推進プログラム」や「スプリングレビュー（中間報告）」に基づく取り組みを一層強化し、庁費的経費の縮減、既存事業の廃止・見直しなど、徹底したコスト縮減を図りながら、限られた財源を効率的かつ効果的に活用し、予算編成をされるよう、次のとおり通知します。

なお、国の予算の動向等によっては配分額の再調整を行うことがありますので留意してください。

## 第1 全般的な事項

### 1 予算編成プロセス

#### (1) 部局の主体的な予算編成

部局長は、重点施策推進方針に沿った部局予算編成方針を策定し、原則として配分された一般財源の範囲内で通年予算の積算を行うものとする。

#### (2) 部局への配分額算定の考え方

部局に対する一般財源の配分額は、19年度の一般財源推計等を踏まえ、18年度当初予算（一部6月補正予算分等を含む）における各部局の一般財源額に基づき算出した。

#### (3) 経費の区分

経費の区分は、次のとおりとする。

##### 経常経費

ア 人件費 …… 配分対象外経費

イ 公債費 …… 配分対象外経費

ウ 特別経費 …… 配分対象外経費

第3の1の(3)に規定する経費をいう。

エ 庁費的経費枠 …… 配分対象経費

ア～ウ以外の経費をいう。

##### 政策経費

ア 特殊経費 …… 配分対象外経費

第3の2の(1)に規定する経費をいう。

イ 重点新規等調整枠 …… 配分対象外経費

重点施策推進方針に基づく新規事業、継続事業の拡充に要する経費及び地域振興局の地域計画推進に要する経費等をいう。

ウ 挑戦枠 …… 配分対象外経費

各部局が実施する公共事業関連以外の新規事業に要する経費をいう。（原則として、重点新規等調整枠に該当するものを除く。）

エ 国体関連枠 …… 配分対象外経費

秋田わか杉国体・秋田わか杉大会の開催等に要する経費をいう。

オ 試験研究推進枠 …… 配分対象経費

試験研究等に要する経費をいう。

カ 公共事業関連経費枠 …… 配分対象経費

公共事業及び臨時債事業経費等をいう。

キ 環境枠 …… 配分対象経費

産業廃棄物税及び環境保全協力金を財源とする経費をいう。

ク 重点施策推進事業(継続)枠 …… 配分対象経費

重点施策推進方針に基づく継続事業に要する経費をいう。

ケ 一般事業枠 …… 配分対象経費  
ア～ク以外の経費をいう。

## 2 部局間調整

部局長は、施策を推進する上で関連する部局との連携を密にし、類似事業の調整を行うこと。なお、必要に応じ総務企画部長が部局間の調整を行う。

## 3 地域振興局関連予算

地域振興局長が自らの知恵と工夫により自主的な予算編成を行うほか、地域振興局長から、地域の課題解決のため関係部局に対し予算要望があった場合、関係部局長は、地域振興局長がとりまとめた要望事項等に配慮して予算編成を行うこと。

## 4 総務企画部による調整

総務企画部は、次に掲げる事項を調整する。

- (1) 特別経費及び特殊経費の精査
- (2) 重点新規等調整枠事業、挑戦枠事業及び国体関連枠事業の精査
- (3) 財源充当の確認(県債、基金繰入金、使用料及び手数料など)
- (4) 類似事業の部局間調整
- (5) 留意事項(第3の3)の確認
- (6) 重点施策推進事業(継続)及び一般事業のスクラップアンドビルドの確認
- (7) 事業費支弁人件費の確認
- (8) その他総務企画部長が必要と認める事項

## 5 配分枠間の財源移行

配分枠間の財源を移行できる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 庁費的経費枠から一般事業枠又は重点施策推進事業(継続)枠への移行
- (2) 一般事業枠から重点施策推進事業(継続)枠への移行

## 6 補正予算の対応

補正予算での対応が必要となる事業等については、あらかじめ総務企画部と協議の上、配分された財源を留保しておくこと。

ただし、予測し得ない災害に対応する経費等特別の場合を除く。

## 7 行財政改革の推進

行財政改革の確実な進捗を図るため、「新行財政改革推進プログラム」を遵守すること。

## 8 事務事業の評価

事業評価及び研究評価の対象となる事業については、評価結果を十分に踏まえ、予算編成に反映させること。

#### 9 事業実施主体等との連携

市町村、民間等が実施主体となる事業については、事前に実施主体と十分調整を行うとともに、市町村の財政負担を伴う事業の計画に当たっては、市町村課と協議すること。

#### 10 財政支援団体への対応

県が出資、補助又は貸付けを行っている各種団体に対しては、団体の事務事業の整理合理化、経費の節減、自主財源の強化等を要請するとともに、経営状況、事業内容、実績、効果等を十分に把握すること。

#### 11 職員数の適正化

職員数については、引き続き適正化に努め、新規事業等のため新たに増員を要する場合でも事務事業の削減又は実施方法の改善等により既定部門からの再配置により対応すること。

### 第2 歳入に関する事項

#### 1 県税

経済情勢や税制改正の動向及び地方財政計画の内容等に基づき、見込み得る年間収入額を適正に見積もること。

また、賦課徴収に当たっては、課税客体、課税標準等の的確な把握を行うとともに、徴収率の向上に努め、税負担の公平確保を図ること。

#### 2 地方交付税、地方譲与税及び地方特例交付金

平成19年度の地方財政計画等を踏まえて適正に見積もること。

#### 3 分担金及び負担金

受益に応じた適正な負担等について検討し、財源の確保を図ること。

#### 4 使用料及び手数料

受益者負担の原則に立ち、実態に即していないものや料率改定後3年を経過したものについて見直しを行うこと。

なお、条例改正を伴う手数料等の改定に当たっては、所要経費の実態や国の動向に十分留意すること。

## 5 国庫支出金

制度改正による国庫補助負担金の廃止など、国の動向を的確に把握し、適正な見積もりをするよう特に留意すること。

## 6 財産収入

数量、価格、料率等についての的確な検討を加えるとともに、適正な管理及び処分により財源の確保を図るよう努めること。

## 7 県債

平成19年度の地方債計画等の動向を十分勘案のうえ、適債事業を厳選し、充当可能額、地方財政措置等を適正に把握すること。

## 8 その他の収入

過去の実績、今後の見通しなどの検討のもとに的確に捕そくすること。

# 第3 歳出に関する事項

## 1 経常経費

### (1) 人件費

定員適正化計画等を踏まえ、各部局で所要額を見積もること。見積方法の詳細については、別途通知する。

### (2) 公債費

県債の償還見込み、新規発行見込み等に基づき、所要額を見積もること。

### (3) 特別経費

次の経費を特別経費とし、総務企画部と調整すること。

なお、 については、アウトソーシング等に係る経費は知事公室と、システム関係経費は学術国際部と予め協議の上、総務企画部と調整すること。

扶助費

県税交付金

共済組合償還金

定例会等応招旅費、政務調査費

法令又は条例により県の負担が直接義務付けられているもの

協定等により県の負担が義務付けられた経費で、廃止することが困難なもの（各種団体負担金を除く）

事務の集約等による正職員の縮減に伴い生ずる経費

特別会計への繰出金及び補助金

平成19年度単年度事業

「県単独補助金の計画的な廃止・縮減について（平成17年10月14日

付け財 - 5 8 1 財政課長通知、以下「県単独補助金通知」という)」の 2 . ( 2 )  
の 及び に規定する県単独補助金のうち、引き続き精査を要するもの  
指定管理者制度を導入した施設又は平成 1 9 年度に導入を予定している施  
設に係る委託費

事務事業の合理化のため特に必要な経費

( 4 ) 庁費的経費

配分された一般財源の枠内で見積もること。

2 政策経費

( 1 ) 特殊経費

次の経費を特殊経費とし、総務企画部と調整すること。

なお、 については、アウトソーシング等に係る経費は知事公室と、システム  
関係経費は学術国際部と予め協議の上、総務企画部と調整すること。

扶助費

継続費設定済み事業（公共事業関連経費を除く）

法令又は条例により県の負担が直接義務付けられているもの

協定等により県の負担が義務付けられた経費で、廃止することが困難なも  
の（各種団体負担金を除く）

5 年以内の事業費が 1 0 億円以上の大規模事業経費（公共事業関連経費を  
除く）

事務の集約等による正職員の縮減に伴い生ずる経費

新規施設整備事業（公共事業関連経費を除く）

公債費に準じた経費

特別会計への繰出金及び補助金

災害復旧事業、災害関連事業

平成 1 9 年度単年度事業

「県単独補助金通知」の 2 . ( 2 ) の 及び に規定する県単独補助金の  
うち、引き続き精査を要するもの

指定管理者制度を導入した施設又は平成 1 9 年度に導入を予定している施  
設に係る委託費

事務事業の合理化のため特に必要な経費

( 2 ) 重点新規等調整枠経費

総務企画部と調整すること。

( 3 ) 挑戦枠経費

総務企画部と調整すること。

( 4 ) 国体関連枠経費

総務企画部と調整すること。

( 5 ) 試験研究推進枠経費

配分された一般財源の枠内で見積もること。

(6) 公共事業関連経費

公共事業新規箇所選定システムの選定結果を踏まえ、配分された一般財源の枠内で見積もること。なお、一般財源と県債を合わせた地方負担額全体についても、同率で縮減すること。

(7) 環境枠経費

生活環境文化部長は、関係部局の要求に基づき、総務企画部と調整すること。

(8) 重点施策推進事業(継続)経費

配分された一般財源の枠内で見積もること。ただし、第3期実施計画の推進上特に重要で、事業内容を見直すことにより大きな効果が期待できる事業等については、総務企画部と調整すること。

(9) 一般事業経費

配分された一般財源の枠内で見積もること。

3 部局の主体的な予算編成のための留意事項

(1) 部局主体による事業の見直し

昨年度実施したスプリングレビューの成果を十分踏まえるとともに、これに更なる検証を加えること。

また、本年度のスプリングレビューは、各部局が主体となって取り組むこととされているので、責任を持って事業の廃止・見直しを進めること。

(2) 県単独補助金

新行財政改革推進プログラムの削減目標のほか、「各部局が主体となった県単独補助金の計画的な廃止・縮減について」(平成18年9月4日財-485財政課長通知)の趣旨を踏まえ、必要性等を考慮し更なる縮減を図ること。

(3) 貸付金

制度の必要性、貸付条件の見直し、廃止、統合、縮小、終期の設定等について検討すること。

(4) 県単独委託費

特別経費、特殊経費として調整するもののほか、随意契約に係る県単独委託費については、これまでの見直しを徹底し、その縮減に努めること。

また、新たに指定管理者制度に移行する施設に係る委託料についても、昨年度実施したスプリングレビューの趣旨を踏まえ、計画的な縮減を図ること。

(5) 非常勤職員報酬

報酬額については、総務企画部と協議すること。

(6) 臨時職員賃金

職員数の縮減を図ることにより、賃金総額を抑制すること。

(7) 車両購入

登録後13年以上経過かつ走行距離数13万km以上の車両を更新対象とし、新

たに購入・リースする場合も含め、総務企画部と協議すること。

#### 第4 継続費

継続費の設定については、総務企画部と協議すること。

#### 第5 債務負担行為

債務負担行為の設定は、将来の財政負担となるので、慎重を期すこと。

複数年にわたり、同一業者と工事請負契約、委託契約等を締結する必要がある場合は、透明性、競争性を確保し、コストの縮減に努めること。

債務負担行為の設定は、総務企画部と協議すること。

#### 第6 特別会計及び企業会計

特別会計については、総務企画部と調整すること。

企業会計については、独立採算を基本とし、引き続き徹底した経営の改善、合理化を推進するとともに、長期的見通しに立った適切な料金の改定を行うなど経営の健全化に努めること。

#### 第7 その他の事項

##### 1 見積書の作成

見積書の作成に当たっては、この編成通知のほか、別添「平成19年度当初予算見積書作成要領」によること。

##### 2 総務企画部長へのお見積書等の提出期限

###### (1) 部局予算編成方針

及び重点新規(拡充) 挑戦枠関係様式 11月 1日

(2) 経常経費見積書 11月 2日

(3) 政策経費見積書 11月21日

(4) 環境枠経費の配分案 11月22日

##### 3 予算編成の日程

###### (1) 財政課担当ヒアリング

・政策経費(重点新規等・挑戦枠関係) 11月 1日 以降

・経常経費 11月 2日 以降

・政策経費 11月21日 以降

(2) 財政課長調整 1月上旬(別途通知)

(3) 総務企画部長調整 1月中旬(別途通知)

(4) 知事査定 1月下旬(別途通知)



#### 4 その他の日程

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| (1) 地域振興局と各部局の意見交換 | 10月27日(別途通知) |
| (2) 予算調整会議         | 11月16日       |

国の予算の動向等により、上記日程は変更となる可能性があります。